

お知らせ

◆協議会の
ホームページを
開設しました

2020年3月より、新たにいのちめぐるまち推進協議会のホームページを開設しました。

それに伴い、今後はニュースレターをホームページで会員向けに公開し、郵送でのお知らせは希望者のみにさせていただきます。希望者の方はメールまたは電話でお知らせください。

ホームページでは、入会案内がわかりやすくなっただけでなく、会員紹介のページ、法人会員のSDGsの取り組み紹介ページも追加しています。

今後更に更新していく予定ですの
でお楽しみに！

URL : <https://meguru.m-sustainable.org/>



いのちめぐるまちニュースレター
～不定期発行～
編集・発行
一般社団法人
サスティナビリティセンター

ニュースレターVOL.3

第3回いのちめぐるまち推進協議会
開催(2019.07.26)

今年度初となる第3回協議会がいりやどを会場に開催され、会員を中心に19名の方にご参加頂きました。

内容は二部構成で、第一部では南三陸町内でも今後さらに被害の拡大が懸念される野生動物による農林業被害対策について、サスティナビリティセンターの相澤より話題提供をさせていただきました。今後南三陸町内の大型哺乳類の個体数が増加するとどのような影響が出るのか？参加者の中には農業者の方もいらっしゃいましたので、具体的な対策方法についてや、戦略的な捕獲の方法は？等の質問も出て、活発な意見交換ができました。今後捕獲頭数が増えていく中で、捕獲個体の衛生的な処理や利用についても課題になっていくと思います。今後は対策とともに資源としての利用についても議論の場を設ける予定です。

第二部ではラムサール基金（仮称）による地域産品のブランド化と環境保全・人材育成の仕組みづくりについて議論しました。参加者の皆様からは様々なご意見をいただき、特に基金の使い道である環境保全・人材育成の具体的な内容を明確にすることが課題であることがわかりました。事務局のサスティナビリティセンターは、環境省事業の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築に向けた活動団体に選定されています。今後はこの制度も活用してラムサール基金も含めた地域づくりについて、具体化を進めていきます。



◆入会・会員更新のご案内

会員みなさまにおかれましては、年度替わりのご多用な時期お過ごしと存じます。年度の切り替えに合わせ、会費の納付をお願いいたします。

納付方法は、下記口座宛の銀行振り込みにてお願いいたします。

(振込手数料は申し訳ありませんが各自ご負担願います。直接現金での納付を希望される場合は、代表までご連絡下さい。)

会費納付先口座：

七十七銀行志津川支店：500

口座番号：普通 5006205

名義人：シヤ) サステナビリティセンター

第4回のちめぐるまち推進協議会 開催(2019.12.03)

12月3日、南三陸町役場会議室にて第4回協議会を開催し、環境省事業の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築の要件である、地域マンダラについて議論しました。平日の午後という時間帯にもかかわらず、10名の会員と5名の町職員にご参加頂きました。また、本協議会は、環境省、東北地方環境事務所、東北地方パートナーシップオフィスからもご参加頂き、環境省との地域意見交換会も兼ねて開催されました。初めに地域循環共生圏づくりプラットフォームについて、環境省の岡野様よりご説明いただきました。その後、参加者全員で南三陸町の持続可能な暮らしや産業のために必要なもの・人・事業や、課題を出し合い、2050年の南三陸町のビジョンを考えました。課題として、「森里海ひといのちめぐるまち」というまちの将来像は良いけれど、町全体の取り組みとするためには、それをさらに具体化してみんなに伝わるようなビジョンとする必要がある、との共通認識を持ちました。作成した地域マンダラには、持続可能なまちを実現するための事業のタネがたくさんつまっている事を参加者で確認することができました。

地域マンダラについては、引き続き協議会でバージョンアップしていく予定ですので、今回参加されなかった方も是非次回協議会で議論に加わって頂き、事業づくりに参加していただければと思います。



◆南三陸版 SDGs

チェックリストが できました！

「SDGs（持続可能な開発目標）」という言葉を目にする機会が多くなっています。これは、2015年9月に開催された国連サミットで採択された、2030年までにたどり着くべき世界共通の17項目についてのゴールで、日本でも様々なレベルで取り組みが進められています。

ただ、途上国も先進国も一緒かな記述なため、地域レベルで使うにはちょっと違和感があり、特に地域の事業者のみなさんからは「何をやったら良いかわからない」という相談もありました。そこで、南三陸の実情に合わせたチェックリストを作成しましたので、まずはご自分の組織がどこまで当てはまるか、確認することから始めて見てはいかがでしょうか？

協議会員特典として、無料でチェックとコンサルティングサービスを行っています。結果はホームページで公開できます。自社と地域の持続可能性を高める取り組みとして、是非ご利用下さい。（会員以外の方にも、有償にてSDGs講座やコンサルティングサービスを提供いたします。）

サステナビリティセンターの
ホームページもリニューアルしました
是非チェックしてください！



URL:
<https://m-sustainable.org/>

事務局の近況

南三陸町の森里海地域資源活用事業補助金を活用した戸倉っこカキのブランド化と教材作成事業が終了しました。

戸倉っこカキは1年ものを「厳選殻付き牡蠣」としてブランディングを行い、生産者の思いを伝える映像や、おいしさをアミノ酸分析により表現することで、殻付きカキの販売増加による漁業者の収益改善と1年ものを主体とする養殖方式の定着支援を行いました。

アドバイザーの（株）結アソシエイト代表取締役・松田恭子氏の支援を受け、東京・福岡のオーガニックスーパーへの販路を開拓するとともに、有名シェフが審査を行う第9回チームシェフコンクールに出品し、評価を探りました。その結果、見事に「濱崎泰輔賞」（タルタルギーナオーナーシェフ）と「オールドビンテージドットコム賞」（ワイン通販の株式会社オルディス）をW受賞しました。株式会社オルディス様からは10個セット・20個セットの特別販売を企画して頂き、計60セット以上のご注文を頂きました。天皇杯受賞とも相まって、一定の評価を引き出すことができました。センターでは、今後もASC認証の普及と1年もの主体のカキ養殖を応援していきます。

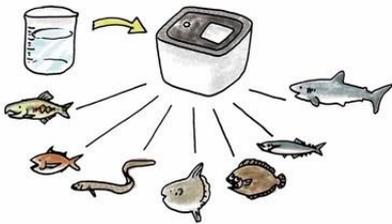
また、人材育成のための教材作成では、バイオマス産業都市構想の事業現場をめぐるツアーやそれを題材としたワークショップに関するプログラムを作成し、町内外の様々な学校や企業の方々に利用して頂きました。地元歌津中学校の授業で活用されたほか、早稲田実業学校初等部では親子が3泊4日で一緒に持続可能なまちづくりを学ぶフィールドスタディとして、毎年夏に10～15組にご参加頂き、高い評価を頂いております。

今年度は、地元の自然をよく知るためのDNAを使った調査手法を解説したテキストも製作しました。東北大学とのコラボで実施している最新調査法をわかりやすく解説したもので、こういった素材で学びながら、最終的には地域住民が科学的な手法を将来への意思決定に役立てられるようになることを目指しています。早速、次のサステナビリティ学講座でこのテキストを使った講座を企画しようと思っております。ご期待下さい。

なお、この補助金の原資は、企業版ふるさと納税の御寄付によるものです。南三陸の持続可能なまちづくりを支える事業に対し、多大なご寄付を頂いた企業の皆様、大変ありがとうございました。

DNA で世界が見える！

～ここまで分かる・DNA 分析入門～



一般社団法人サステナビリティセンター

イラスト：ニシザワマキコ (NPO 法人大阪自然史センター)



第9回チーム・シェフ・コンクール 濱崎泰輔賞

豊かなアイデアと確かな腕で携わった生産者を唸らせる気鋭の料理人

より多くの食卓に届けたい、より良い商品を作りたいという想いを支援いたします。

シェフの店舗でテスト的に取り扱いを実施いたします。

濱崎 泰輔 (タルタルギーナ)

20歳からキャリアをスタート。国内の複数店舗に加え、南イタリアのプーリア州、カラブリア州の複数店舗での修行経験を経て、銀座「ISOLAolu」チーフシェフに就任。連日100席を埋める繁盛店として評判を得る。

2014年に独立し、神楽坂にタルタルギーナをオープン。自家製でひとつひとつ手作りで提供するプーリア州伝統のバスタであるオレキエッテ、シンプルかつ豊かな料理等、伝統的な料理から家庭的な味わいまで存分に南イタリアを満喫できる料理を提供する。シチリアの大手イベントに日本代表のシェフとして胸を張るなど国内外に活躍の場を持つ。

◆地域支援などの代表的な活動歴
地引網バル参加 (静岡県静岡市にて)
一流料理人が石巻を料理するプロジェクト参加 (商品監修、石巻水産高校での講師等)
十勝フードミーティング2013-2014 パネリスト



